

こんにちは、スタンフォードでポスドク2年目を迎える鄭麗嘉です。ポスドク第1回目となる前回の報告書から半年足らずということで大したアップデートはないのですが、とりあえずこの5か月間で起こったことを書いてみます。

1. 研究について：移り変わりが激しい

コーネルの新しい先生の研究室からスタンフォードの有名研究室に移ってきたこともあり、研究に対するスタンスが結構がらりと変わりました。今の先生は新しいことにとっても敏感で、悪く言うと飽きっぽく、興味の盛衰がなかなか激しいです。私は興味のあるテーマが一貫して存在するのですがそれは自分が独立してやりたいことでもあるので、ポスドクの間はある程度先生の興味関心に沿って進めていこうとはしているのですが、先生が推す研究テーマに乗っかりすぎて労力が分散してしまっているように感じます。

当初から続いているメインの研究テーマ2つとサブテーマ1つの他に、他メンバーと共同で立ち上げたテーマがポコポコと生まれては先細って滞っていつたりしています。十分な見込みがないから先細っているのもそういったものは朽ちていくに任せればいいのかもかもしれませんが、自分は基本万策尽きるまでいろいろと試していくスタイルなので、先生の興味の変遷とともに研究テーマの方向性ががらりと変わることに少しやりづらさは感じます。2週間に1回の頻度でサブグループミーティングがあって、そこでは先生が毎回ランダムにグループを分けて全員が研究成果を発表します。ミーティングの後にも結構な頻度で先生が個人メールでフォローアップしてくるので、先生の意志が研究の方向性に反映されやすいラボだとは思いますが、とりあえず、それぞれの研究テーマがどうなっているか自分の側でしっかりと把握しつつ、先生の移り変わる興味に合わせて共有する部分と裏で進めていく部分を使い分け、全体的にうまく管理していくことを目指したいです。

2. 生活について：東海岸が恋しい

1年以上経ってもいまだスタンフォードの快晴続く空模様といまいち澄み切らない空気に馴染めず、東海岸（特にイサカ）の気候を恋しく思っています。今週ちょうど学会でボストンに行ったのですが、16か月ぶりに味わう冷たい澄んだ空気にとっても嬉しくなりました。自分もともとカリフォルニアが好きでアメリカに来たはずなのに、イサカで過ごす PhD 6年間の間に細胞が組み変わってしまったのかもしれませんが。カリフォルニアにあと何年かいたらまた細胞が慣れるのでしょうか。自分は多神教なので朝焼けや夕焼けといった綺麗な光景を見たら神様方に祈りを捧げるのですが、イサカにいた時期と比べてその頻度が10分の1以下にまで落ち込んでいます。ただ、雲が少ないので満月はいつも綺麗です。

3. 研究分野とコミュニティ

漠然と考えていることをつらつら書きます。日本もそうでしょうが、アメリカのアカデミアはアカデミックツリーに基づくコミュニティがわりとはっきりと存在しています。自分の PhD の指導教官は有機化学分野出身からポスドクで脂質生物学を学んだ先生で、PhD 時代の Bertozzi コミュニティ（生物有機化学）とポスドク時代の De Camilli コミュニティ（脂質生物学）の両方に属しています。「有機化学の知見を活かして脂質生物学を研究する」という感じの立ち位置です。私はその先生のもとでタンパク工学方面の研究を新規開拓して一定の成果を挙げ、その後タンパク工学の専門家である今の先生のもとでポスドク研究をしています。PhD 時代の指導教官が私の名前を脂質生物学の方々に宣伝してくれているおかげで、脂質生物学分野で一応の知名度（といえるものではありませんが…）はあり、「タンパク工学方面の知見を脂質生物学に還元する」という形でニッチな脂質生物学コミュニティに自分の居場所を築けそうな感じはしています。もともとポスドクに進んだときは脂質生物学に特に思い入れがなかったのですが、いざポスドクでタンパク工学のラボに入ると当然ながら誰も彼も皆タンパク工学をしているので、他と差別化するための自然な流れとして脂質生物学に戻ってくることとなり、わりと適当に選んだ PhD 時代の研究分野が自分の独立後のテーマも決定づけそうだというのは少し予想外でした。とはいえ PhD で分野を軽視したのは指導教官の人柄を重視して選んだからなので、結果的にその恩恵を多々受けている現状を見るに良い選択をしたと思っています。

今から PhD 分野を選択する人がこの報告書を読むことは減多にないと思われませんが、研究分野に関しては究極のところなるようになるので、指導教官の人柄で選ぶという戦略はやはり間違っていないと思います。また、アカデミックコミュニティに顔を売るという面では、指導教官が力を入れている分野に携わって研究するのがかなり有利ではあります。例えば今ポスドクをしている Alice Ting 先生は TurboID や APEX2 といった近接標識酵素で名を知られているので（先生自身はそれから脱却しようとして色々手を伸ばしてはいるのですが）、近接酵素と無関係な研究をしている先輩ポスドクが就職面接に挑んだ際に相手からは近接酵素関連の研究の提案を期待されたりしたようで、そういった点でも研究室のメインテーマから外れることはやはり不利なのかなと思います（ただその分先生との差別化が容易ではあるので当たれば大きい）。

4. 終わりに

あまり大きなまとまった報告がないので、自分が日頃感じていることと最近大きな学会に参加して思ったことを何となく綴った感じになりました。駄文を読んでもくださりありがとうございました。とりあえず早くメインの研究 2 本を論文にして就職活動を始めたいです。